

1. 大課題名 II 高品質・高付加価値農産物の生産・供給技術の確立
2. 課題名 タマネギの機械除草技術の検討
3. 試験担当機関 兵庫県立農林水産技術総合センター 淡路農業技術センター・  
・担当者名 竹川 昌宏
4. 実施期間 平成30年度～平成31年度、新規
5. 試験場所 兵庫県立農林水産技術総合センター淡路農業技術センター圃場
6. 成果の要約

本年、年内の気温は最高気温は高め、最低気温は低めに推移し、気温の日較差が大きかった。11月以降大きな雨は降らず、やや乾燥気味でタマネギの生育は平年並みである。平成31年2月7日に1回目の機械中耕を行う予定である。

## 7. 目的

淡路地域のタマネギ栽培では、雑草防除は中耕や薬剤防除を中心とした体系で行っているが、厳寒期の歩行型管理機での中耕作業や薬剤防除は体への負担が大きい。そこで、管理機で牽引するタイプの中耕除草機を使って中耕除草を行い、除草効果及び省力効果、タマネギへの影響を明らかにする。

試験区	雑草防除の時期及び方法					
	12月(定植時)	1月	2月上旬	3月上旬	3月中旬	4～5月
① 機械中耕1回春処理区				手取り除草 + ゴーゴーサン細粒剤		
② 機械中耕2回春処理区	サターン バアロ粒剤	-	機械 中耕	機械中耕 + ゴーゴーサン細粒剤	バサグラン 液剤	最小限で 手取り 除草
③ 機械中耕2回区				機械中耕		
④ 慣行中耕区			慣行 中耕	手取り除草 + ゴーゴーサン細粒剤		

## 8. 主要成果の概要及び考察

- (1) 乗用管理機（ヤンマーHV171）＋牽引式中耕除草機（キュウホーHS2-4M+TTM-4）による機械中耕処理（2月上旬、3月上旬）と慣行中耕処理である管理機（みのる EU51）処理（2月上旬）と手取り除草の比較を行う。
- (2) 乗用管理機は 2,520,000 円（税別）、牽引式中耕除草機は 440,000 円（税別）、対照の管理機は 115,000 円（税別）である。

## 9. 問題点と次年度の計画

- (1) 2回目の中耕処理時期の検討など

## 10. 主なデータ



本年1月15日のタマネギの状態



昨年2月27日の予備試験